

検診を受けて早期発見を

9月は、がんとその予防についての正しい知識を徹底し、早期発見・早期治療の普及に全国的に取り組む「がん征圧月間」です。今回は、がんの中でも全国的に増えている「大腸がん」について、つがる市民診療所の一戸久人所長にお話を伺いました。



いちのへ ひさと 一戸 久人所長プロフィール

昭和43年三戸町生まれ。弘前大学医学部大学院修了。平成9年大館市立総合病院で医師としてスタート。平成21年旧木造町立成人病センターに着任。平成27年つがる市民診療所所長に就任。専門は一般内科、消化器、血液。弘前市在住。好きなもの 焼き肉、ビール、蝉の声

—大腸の主な病気を教えてください
一言に大腸の病気と言っても色々あります。

腫瘍を作る病気としては、大腸ポリープや大腸がん。細菌などが関係する病気としては、腸炎、虫垂炎、大腸憩室炎があり、原因不明な腸炎には潰瘍性大腸炎やクローン病。大腸の動きが悪くなる病気としては、過敏性腸症候群。手術後の癒着や腫瘍など、いろいろな原因で大腸の通りが悪くなる腸閉塞。その他にも、下血の原因になる虚血性腸炎や痔核などがあります。

—今回は、特に大腸がんについて詳しく教えてください

大腸がんは、近年どんどん増えている病気で、がんの中でも最も多くの人がか

かるがんとなりました。

症状としては、大腸の細胞ががん化し、増殖して腫瘍を作ります。それが進行してくると血便、下痢と便秘の繰り返し、腹部膨満感（お腹が張る感じ）、腹痛、貧血、体重減少などを起こします。こういった症状のいずれかが出てきたときには、大腸がんの可能性も考えなければなりません。

腫瘍が増大してくると、リンパ節に転移したり、血流に乗って肝臓、肺などに転移していきます。

—大腸がんの原因としては、どのようなものがありますか

いろいろ調べられていますが、喫煙や飲酒、肥満と運動不足が要注意項目として挙げられています。食事については諸説ありますが、動物性脂肪が少なく、食物繊維が多い食事が良さそうだという意見が多いです。糖尿病があるだけでもがんのリスクが高くなるようで、糖尿病を予防するような生活ががん予防にもつながるようです。

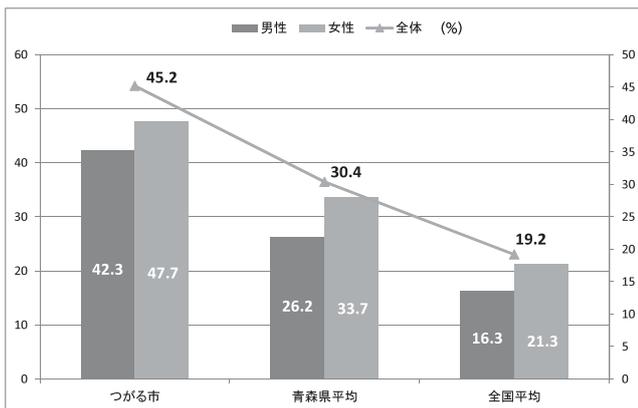
また、親族に大腸がんにかかった人が多い方も要注意です。

—大腸がんを治療するうえで大事なことはなんですか

患者さん一人一人の病気の進行に合わせて治療を選んでいく必要があります。

大腸がんの進行度は、がんの深達度（深さ）、リンパ節転移や他の臓器への転移

平成26年度 つがる市 大腸がん検診受診率(40~69歳)



出典 「政府統計の総合窓口 e-stat」

全国・青森県平均を上回っていますが、もっと受診率を上げて、早期発見に努めましょう。



検診を受けた方にお話しを聞きました

「受けてよかった大腸がん検診」蝦名 博さん(67歳)

毎年がん検診を受けていますが、昨年はじめて要精検との判定が。体調は悪くなく、自覚症状もありませんでした。すぐに病院を受診し、ステージⅠの大腸がんを診断を受けて10月に手術。経過は良好で、趣味のスキーも1月から行き始めました。まだ小さいポリープが2つあり、病院で経過を見ています。

体調はいつも通りだったのががんが見つかり、やはり毎年検診を受けることが大切だと思いました。そして、要精検となったら面倒がらずに行くこと。症状が出てからだと遅いこともあるので、自覚症状がなくても早く行くことが大事だと思います。



の有無によって、ステージ分類されています。早期発見できれば、大腸内視鏡で治療が終わるので、体の面でもお金の面でも負担が少なく治療ができていいんですが、進行していると手術や化学療法が必要になってきます。

—治療にはどのような方法がありますか
内視鏡治療、手術、化学療法、放射線療法などがあります。

内視鏡治療には、ポリペクトミー、EMR（内視鏡的粘膜切除術）、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）があります。ポリペクトミーは、病巣部の根元にスネアというワイヤーをかけ、電流を流して焼き切ります。EMRは、病巣部の周囲に局注液を注入して、病変の根元にスネアをかけ、電流を流して焼き切ります。ESDでは、粘膜下に局注液を注入し、病変の周囲を電気メスのようなナイフで少しずつ剥ぎ取っていきます。

大腸がんの手術は、基本的には、がんがある部分を含む腸管の切除とリンパ節郭清※です。肛門に近い直腸がんの手術では、人工肛門が必要になるなど、排便習慣の変化や排尿機能障害・性機能障害などが起こる場合があります。

※リンパ節郭清とはがんの病巣部だけでなく、転移する危険性がある周辺のリンパ節も一緒に切除すること。

化学療法は、従来の抗がん剤や分子標的薬を使ってがん細胞の増殖を抑えたり死滅させたりする治療法です。化学療法を行うためには、その有効性だけでなく、患者さんの希望や全身の状態などを考えて決めていきます。

—早期発見をするためにはどのようなことをすればよいのですか

早期がんは、ほとんどの場合、症状を感じません。そのため、大腸がん検診で行われている「便潜血検査」を受けることをおすすめします。これは、2日間の便を採って、微量な出血を見つける検査です。出血しない日もあるので、1回限りの検査ではなく、ぜひ毎年継続して検査を受けることをおすすめします。

便潜血検査で陽性の場合は、大腸内視鏡検査などの精密検査を受けましょう。また、陰性の場合でも、気になる症状があれば医療機関を受診してください。

—市民のみなさまへ一言お願いします

大腸がんを治すには早期発見が一番の近道。検診とその後の精密検査を受けることで、市民の皆さんが大腸がんで命を落とすことを防げるので、皆さんぜひ検診を受けてください。

つがる市では、

市民のがん検診費用を

全額助成 しています。

健康づくり講座 「大腸の病気～大腸がんを中心に～」

講師 つがる市民診療所長 一戸 久人 氏

日時 9月25日(火) 14時～15時30分
(受付13時30分～13時55分)

場所 市民健康づくりセンター 健診運動ホール

申込期限 9月21日(金)

【申し込み・問い合わせ先】健康推進課 電話42-2111(内線307)

